

性行動に関するアンケート調査に協力が得られた症例は男性 50 例と CSW を除く女性 143 例であった。今回の症例のなかで、以前に医療機関で STD と診断されたことがあると答えたのは、男性で 32.0%、女性で 49.7%と女性の方が多かった。また、過去に HIV 検査を受けたことがあると答えたのは男性で 46.0%、女性で 62.2%とやはり女性の方が多かった。自分が HIV に感染する可能性はどの程度と考えているかとの質問にも、まったくない、あるいは低いと思っているのは女性 60.1%、男性 78.0%で男性の方が高かった。一方 HIV に感染する可能性が中くらいと思う、または高いと思うと考えている症例は女性で 39.9%、男性で 20.2%と女性で高かった。過去 3 ヶ月間のセックスの時、コンドームを使用したかどうかの質問には、一度も使用しなかったのは女性 14.7%、男性 16.0%、毎回使用したと答えたのは女性 20.3%、男性 20.0%であった。また、今回の調査で希望する検査項目に関する質問では、女性ではほぼ 95%以上が HIV を含む全ての項目の検査を希望したのに対し、男性では、HIV が 84.0%、HBs 抗原検査希望者は 52.0%と低かった。

E 考察

今年度の検討において、STD 患者における HIV 陽性者は、検査を拒否した症例を除くと、男性 STD 症例 108 例中 2 例 (1.9%) であり、昨年 1.0%と比べ大きな変化はなかった。男女 STD 症例を合わせると 1.0%、CSW も含めると 0.5%の陽性率となる。

平成 18 年から 20 年の 3 年間にわれわれが行った同様の調査では、HIV 陽性率は、男性 STD 症例 531 例中 10 例、1.9%で、今年度と同程度の陽性率であった。一方、女性 STD 症例、CSW においては、依然として HIV 陽性者がみられていないことは朗報とも言えるが、今後その動向には引き続き注意が必要であろう。

性に関するアンケート調査の結果では、コンドームの使用状況調査において目立った改善は認められず HIV 感染症を含む STD の予防は依然として十分には行われているとは言えなかった。さらに HIV を含む STD への感染に対する認識も例年通りきわめて低いことが

明らかになった。

わが国において HIV 感染者が依然として増加傾向にある現状を考えれば、今後も継続して STD 患者における HIV 感染の浸透状況の検討を継続していくことが重要と思われた。

F、学会発表 なし

[小野寺グループ構成]

(班員)

- ・赤枝六本木診療所 …… 赤枝恒雄
- ・いえさか産婦人科医院 …… 家坂清子
- ・佐々木医院 …… 佐々木 寛
- ・札幌東豊病院 …… 南 邦弘、前田信彦
- ・新宿さくらクリニック …… 澤村正之
- ・保科医院 …… 保科眞二
- ・宮本町中央診療所 …… 尾上泰彦
- ・新宿山の手クリニック …… 大原宏樹
- ・吉尾産婦人科医院 …… 吉尾 弘

(協力者)

- ・三菱化学メディエンス㈱ …… 小谷亮平、吉田晃

[実施概要]

- ① 対象： (目標数)
 - ・ 男性STD症例 …… 186症例
 - ・ 女性STD症例 …… 186症例
 - ・ CSW症例 …… 186症例
- ② 同意：
 - ・ インフォームドコンセントを取り、希望項目のみ測定
- ③ アンケート：
 - ・ 記入は任意とし、男女STD症例へ実施

検査拒否数

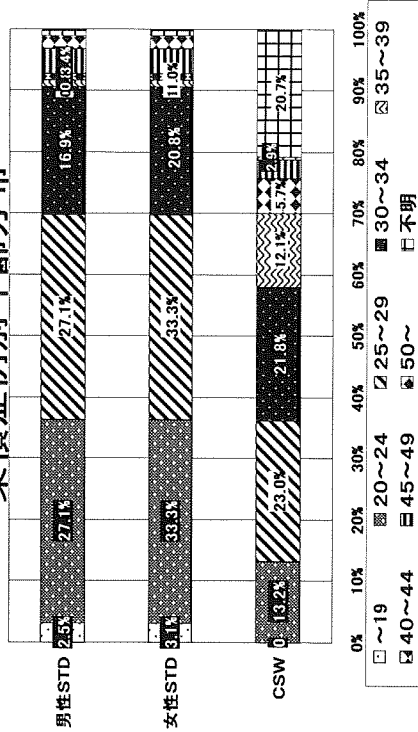
	HIV	CT	Gono	TPHA	HBs
男性STD (122)	14	3	3	2	0
女性STD (125)	28	0	0	0	0
CSW (174)	0	0	0	1	6

各症例集積陽性率

	HIV	CT	Gono	TPHA	HBs
男性STD…(122)	2/108 1.9%	10/119 8.4%	8/119 6.7%	7/120 5.8%	0/122 0.0%
女性STD…(125)	0/97 0.0%	10/125 8.0%	1/125 0.8%	1/125 0.8%	0/125 0.0%
CSW…(174)	0/174 0.0%	11/174 6.3%	3/174 1.7%	5/173 2.9%	1/168 0.6%

■ 男性STD 2 症例 → HIVスクリーニング陽性(WB陽性)

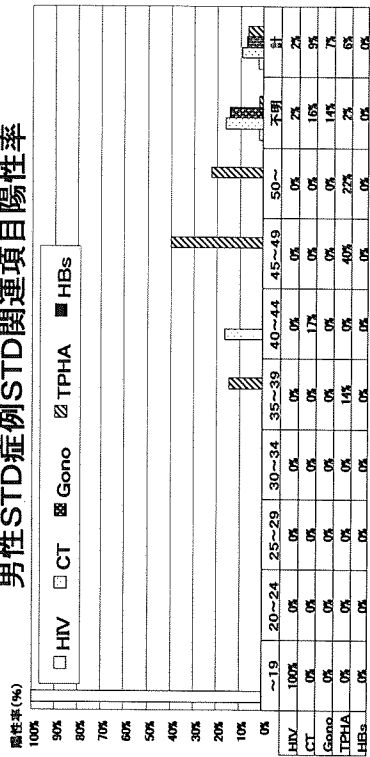
集積症例別年齢分布



男性STD症例年代別症例数・陽性率

	~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~	不明
HIV	1/1 100.0%	0/3 0.0%	0/1 0.0%	0/11 0.0%	0/12 0.0%	0/5 0.0%	0/5 0.0%	0/9 0.0%	1/57 1.8%
CT	0/1 0.0%	0/3 0.0%	0/2 0.0%	0/13 0.0%	0/14 0.0%	1/6 16.7%	0/5 0.0%	0/9 0.0%	9/56 16.1%
Gono	0/1 0.0%	0/3 0.0%	0/2 0.0%	0/13 0.0%	0/14 0.0%	0/6 0.0%	0/5 0.0%	0/9 0.0%	8/56 14.3%
TPHA	0/1 0.0%	0/3 0.0%	0/2 0.0%	0/13 0.0%	2/14 14.3%	0/6 0.0%	2/5 40.0%	2/9 22.2%	1/57 1.8%
HBs	0/1 0.0%	0/3 0.0%	0/2 0.0%	0/14 0.0%	0/14 0.0%	0/6 0.0%	0/5 0.0%	0/10 0.0%	0/57 0.0%

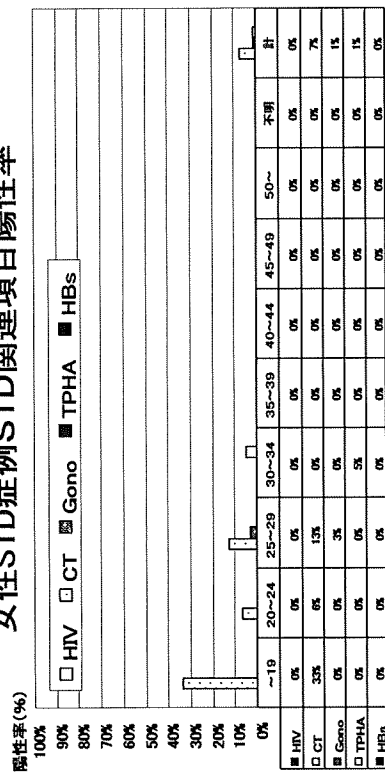
男性STD症例関連項目陽性率



女性STD症例年代別症例数・陽性率

	~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~	不明
HIV	0/3 0.0%	0/32 0.0%	0/32 0.0%	0/20 0.0%	0/1 0.0%	0/1 0.0%	0/4 0.0%	0/2 0.0%	0/1 0.0%
CT	1/3 33.3%	2/32 6.3%	4/32 12.5%	0/20 0.0%	0/1 0.0%	0/1 0.0%	0/4 0.0%	0/2 0.0%	0/1 0.0%
Gono	0/3 0.0%	0/32 0.0%	1/32 3.1%	0/20 0.0%	0/1 0.0%	0/1 0.0%	0/4 0.0%	0/2 0.0%	0/1 0.0%
TPHA	0/3 0.0%	0/32 0.0%	0/32 0.0%	1/20 5.0%	0/1 0.0%	0/1 0.0%	0/4 0.0%	0/2 0.0%	0/1 0.0%
HBs	0/3 0.0%	0/32 0.0%	0/32 0.0%	0/20 0.0%	0/1 0.0%	0/1 0.0%	0/4 0.0%	0/2 0.0%	0/1 0.0%

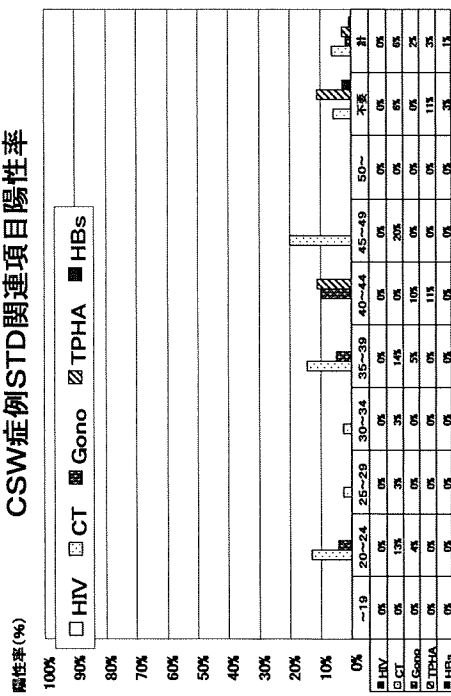
女性STD症例STD関連項目陽性率



CSW症例年代別症例数・陽性率

	~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~	不明
HIV	0/0 0.0%	0/23 0.0%	0/40 0.0%	0/38 0.0%	0/21 0.0%	0/10 0.0%	0/5 0.0%	0/1 0.0%	0/36 0.0%
CT	0/0 0.0%	3/23 13.0%	1/40 2.5%	1/38 2.6%	3/21 14.3%	0/10 0.0%	1/5 20.0%	0/1 0.0%	2/36 5.6%
Gono	0/0 0.0%	1/23 4.3%	0/40 0.0%	0/38 0.0%	1/21 4.8%	1/10 10.0%	0/5 0.0%	0/1 0.0%	0/36 0.0%
TPCHA	0/0 0.0%	0/23 0.0%	0/40 0.0%	0/38 0.0%	0/21 0.0%	1/9 11.1%	0/5 0.0%	0/1 0.0%	4/36 11.1%
HBs	0/0 0.0%	0/21 0.0%	0/40 0.0%	0/32 0.0%	0/19 0.0%	0/8 0.0%	0/5 0.0%	0/1 0.0%	1/36 2.8%

CSW症例STD関連項目陽性率



男性患者さんへのアンケート

登録番号 _____

研究にご協力いただきありがとうございます。

研究をより正確なものにするため、以下の質問にお答えいただきたいと思いますが、答えたくない質問には答えなくても結構です。

問1. 次の項目の該当する選択肢を○で囲んでください。

- あなたの年齢は(数字を記入) _____ 歳
- あなたは結婚していますか 1. はい 2. いいえ

問2. あなたは今回の受診以前に、医療機関で性感染症(クラミジア、淋病などの性病)と診断されたことがありますか。
(どちらかに○印、下線部に数字を記入)

1. はい → はいと答えた方
2. いいえ そのときの病名は何と言われましたか。

問3. 今回の医療機関を受診した理由は何ですか。(どれかに○印)

1. 症状がある → どのような症状ですか []
2. 症状はないが心配
3. その他 []

右上(問4)へ続く



問4. 過去3ヶ月間のセックスのときコンドームは使いましたか。(どれかに○印)

1. 一度も使用しなかった
2. 使用しないほうが多かった
3. 使用したりしなかったり約半々だった
4. 使用するほうが多かった
5. 毎回使用した
6. 過去3ヶ月間にセックスしていない

問5. 本日、次の検査を希望しますか。(いくつでも○印をしてください)

1. HIV 2. クラミジア 3. 淋病 4. 梅毒 5. HBs(肝炎)

問6. あなたは今までに HIV 検査を受けたことがありますか。
受けたことがある方は、該当する回数にも○印をしてください。

1. はい … (検査回数は、1回 ・ 2回 ・ 3回以上)
2. いいえ

問7. あなたは自分が HIV(エイズウイルス)に感染する可能性はどの程度だと思えますか。(どれかに○印)

1. まったくない
2. 低いと思う
3. 中くらいと思う
4. 高いと思う

以上です。ご協力ありがとうございました。

女性患者さんへのアンケート

登録番号 _____

研究にご協力いただきありがとうございます。

研究をより正確なものにするため、以下の質問にお答えいただきたいと思いますが、答えたくない質問には答えなくても結構です。

問1. 次の項目の該当する選択肢を○で囲んでください。

- あなたの年齢は(数字を記入) _____ 歳
- あなたは結婚していますか 1. はい 2. いいえ
- あなたは妊娠されていますか 1. はい 2. いいえ

問2. あなたは今回の受診以前に、医療機関で性感染症(クラミジア、淋病などの性病)と診断されたことがありますか。
(どちらかに○印、下線部に数字を記入)

1. はい → はいと答えた方
2. いいえ そのときの病名は何と言われましたか。

問3. 今回の医療機関を受診した理由は何ですか。(どれかに○印)

1. 症状がある → どのような症状ですか []
2. 症状はないが心配
3. その他 []

右上(問4)へ続く



問4. 過去3ヶ月間のセックスのときコンドームは使いましたか。(どれかに○印)

1. 一度も使用しなかった
2. 使用しないほうが多かった
3. 使用したりしなかったり約半々だった
4. 使用するほうが多かった
5. 毎回使用した
6. 過去3ヶ月間セックスしていない

問5. 本日、次の検査を希望しますか。(いくつでも○印をしてください)

1. HIV 2. クラミジア 3. 淋病 4. 梅毒 5. HBs(肝炎)

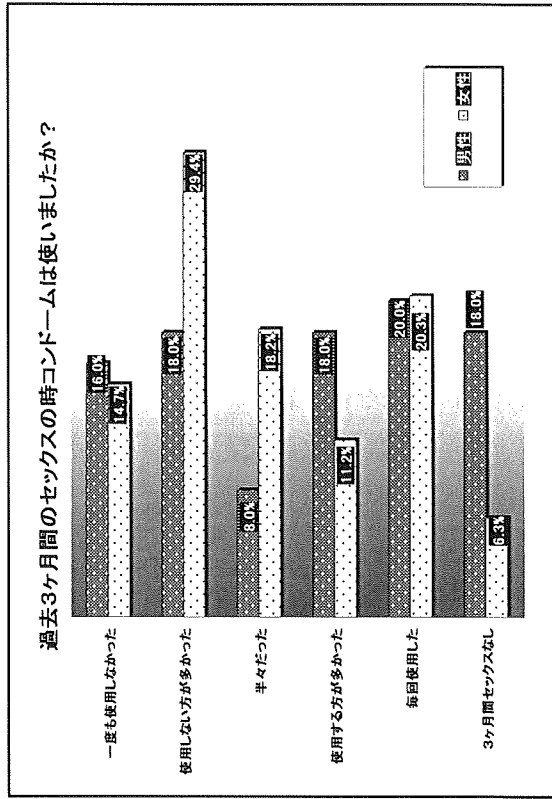
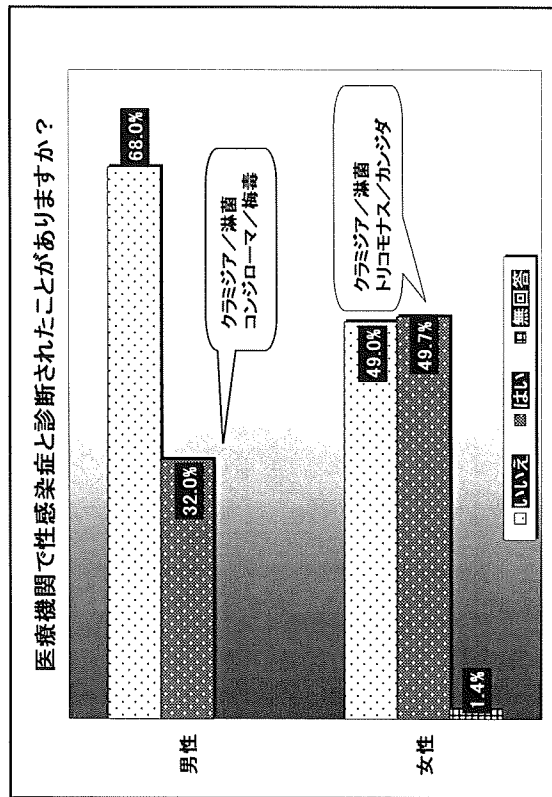
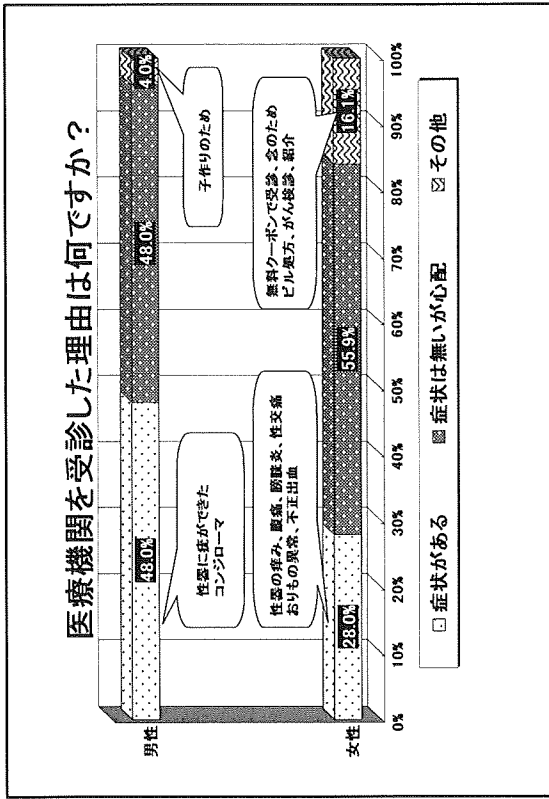
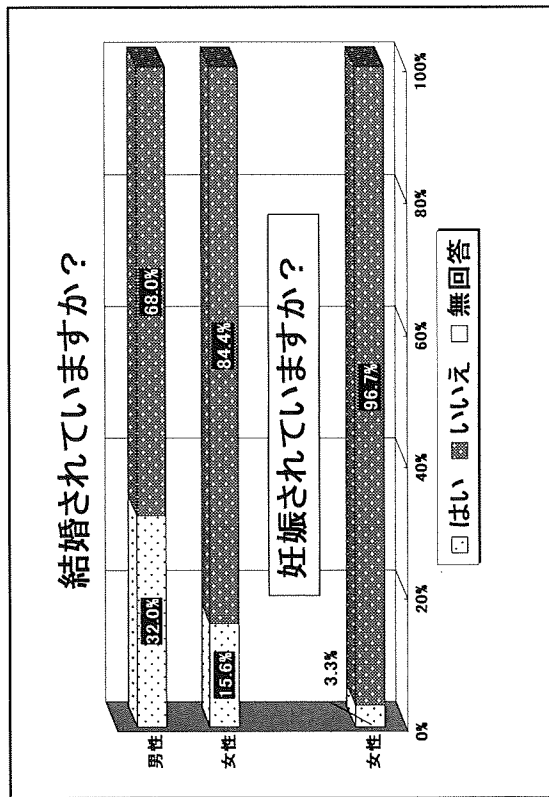
問6. あなたは今までに HIV 検査を受けたことがありますか。
受けたことがある方は、該当する回数にも○印をしてください。

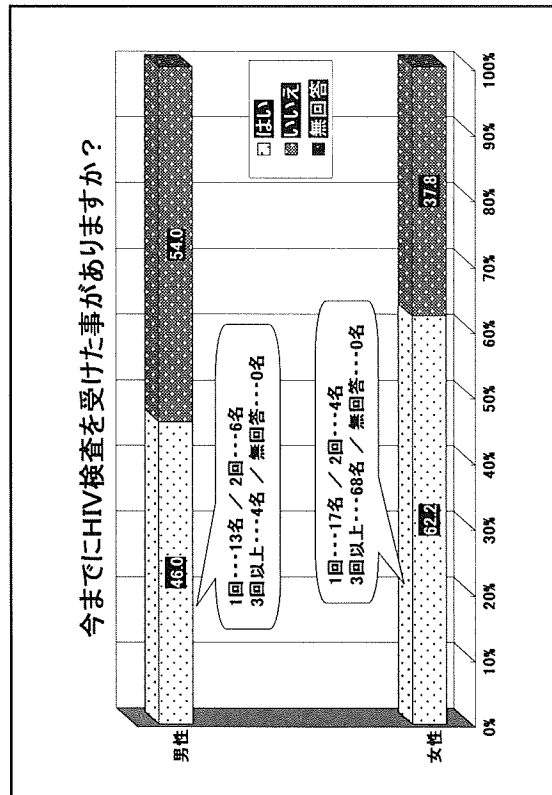
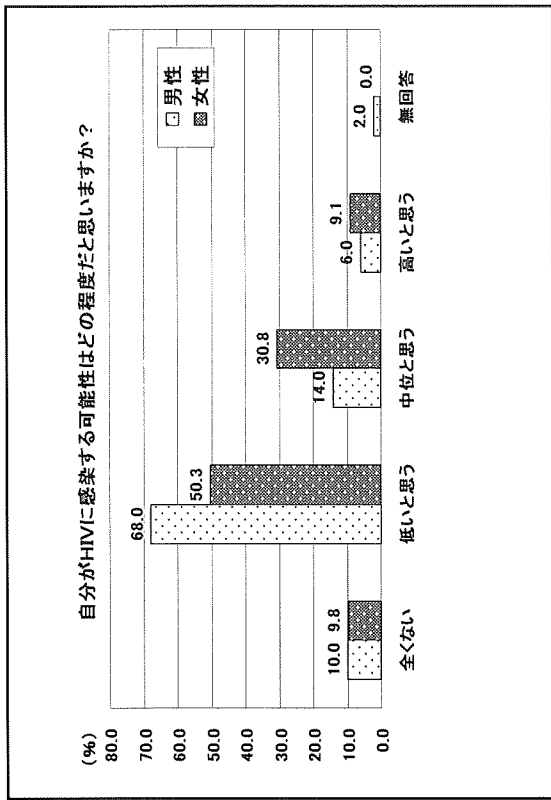
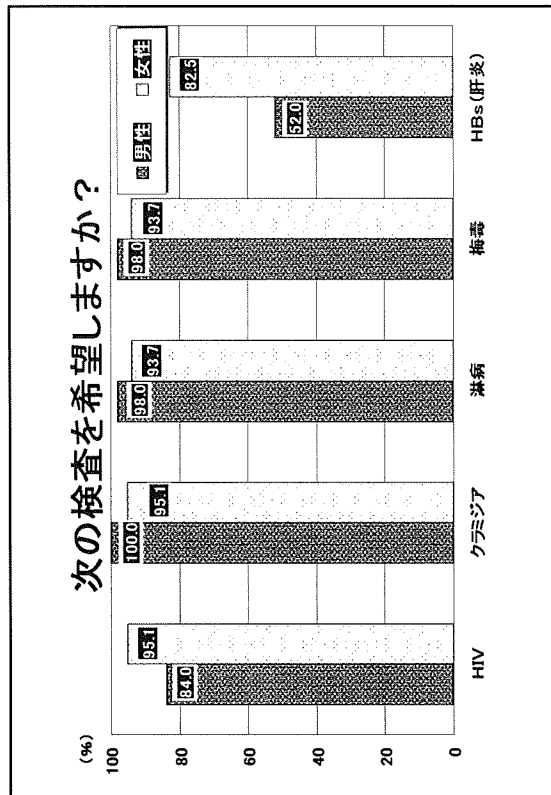
1. はい … (検査回数は、1回 ・ 2回 ・ 3回以上)
2. いいえ

問7. あなたは自分が HIV(エイズウイルス)に感染する可能性はどの程度だと思えますか。(どれかに○印)

1. まったくない
2. 低いと思う
3. 中くらいと思う
4. 高いと思う

以上です。ご協力ありがとうございました。





薬物乱用・依存者におけるHIV感染態と行動のモニタリング に関する研究

研究分担者：和田 清（国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部）

班 員：石橋正彦（おおりん病院）、中村亮介（都立松沢病院）、前岡邦彦（瀬野川病院）、
森田展彰（筑波大学）

研究協力者：飯田信夫（回生病院）、山田幸子（アパクリニック）、津久江一郎（瀬野川病院）、茨城ダルク、
鹿島ダルク、千葉ダルク、栃木ダルク、日本ダルク、横浜ダルク、他

研究要旨 ① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。② 研究は「1.精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」（病院群）、「2.医療機関を受診していない薬物依存者調査」（非病院群）の2部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。いずれの調査も、2009年1月1日～2009年12月31日に入院、入所（一部通所）した者を対象とした。③ 病院群は4施設の初回対象患者167人（検査経験者を含めると188人）を調べた。この4病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約13%（2006年6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数を元にして）は捕捉できると推定している。非病院群は7施設（過去最高）の初回検査者115人（検査経験者を含めると298人）を調査した。④ 両群でHIV抗体陽性者は認められなかった。⑤ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が34%と高く、80%の者に、これまでに注射による薬物使用の既往（以下、注射の既往）があり、この1年間でも51%の者に注射の既往があった。また、約60%の者にシリンジ及び針の生涯共用経験があり、最近1年間に限っても、約14%の者にシリンジ及び針の共用経験があった。経年的には注射の1年経験率、注射針の1年共用経験率は低下を示しており、その背景には「あぶり」の普及があると推測される。⑥ 病院群における「あぶり」の経験率は2000年以降、定着したようである。「あぶり」を行った理由としては、「好奇心」「注射は怖いから」「気軽にできるから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者は極めて少ないことが明らかになった。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。同時に、その気軽さ及びファッションブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が伺え、今後、薬物使用と性行動との関係に関する対応が必要である。⑦ 非病院群の覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は約30%であり、病院群の34%よりは低かった。⑧ 非病院群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群での、この1年間での注射経験率は病院群でのそれよりも低い。それは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。⑨ 病院群、非病院群に関係なく、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無を独立変数として、判別分析を行った。その結果、固有値が0.352、Wilksのラムダが0.740 ($p < 0.000$) であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は73～86%で、正準判別関数では、注射の回数：0.831、年齢：0.442、入れ墨：0.159であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。⑩ 薬物乱用・依存者のHIV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複していることが多そうで、今後も、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

A. 目的

薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器、注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

B. 研究グループの構成と研究方法

本研究グループは、下記のように2つのサブグループより成り立っている。

1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査（病院群調査）
 - 首都圏③病院
 - 中国圏②病院
 - 九州圏⑥病院
 - ⑦病院
2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査（非病院群調査）
 - ⑩ダルク ⑰ダルク
 - ⑬ダルク ⑱ダルク
 - ⑭ダルク ⑲ダルク
 - ⑮ダルク

わが国で乱用されている依存性薬物は、結果的に医療機関を受診する乱用者数の上では、有機溶剤と覚せい剤が圧倒的に多かったが、最近では有機溶剤が激減し、医薬品、多剤乱用の割合が高くなって来ている。多くの依存性薬物は、乱用の繰り返しの繰り返しにより、高頻度に精神病を引き起こすため、薬物乱用・依存者を調査するには、精神科医療施設での調査が効果的である。また、覚せい剤の乱用は、静脈注射によることが多いため、HIV感染の危険がきわめて高い。

そこで、当研究グループでは、薬物乱用・依存者が多いと考えられる地域の、かつ、薬物依存・精神病患者を多く診ている病院を調査定点とし、患者の承諾を得た上で、診療録からのデータの転記調査を実施した（図1○）。調査定点の4病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約13%（2006年6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数を元にして）は捕捉できると推定している。



図1 平成20年度における覚せい剤事犯の人口10万人に対する検挙人員と調査定点

また、薬物乱用・依存者の全てが医療施設を受診するわけではないため、薬物依存者回復支援グループ（図1◎）の協力を得て、医療施設を受診していない薬物乱用・依存者に対する個人面接聞き取り調査・採血調査も、本人の同意の下で実施した。

いずれの調査も、調査期間は2009年1月1日～2009年12月31日である。

また、本調査については国立精神・神経センターの倫理委員会の承認を得た上で実施した。

覚せい剤等の使用は、わが国では、それ自体が犯罪行為であり、本調査は違法行為の掘り起こしの側面を持っており、調査への同意を得ることが極めて困難な調査である。しかも、ハイリスク行動に関する聞き取り調査には、調査者側の訓練・経験が必要であり、調査実施の困難性はなおさらである。

C. 本年度の目標

「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」はすでに、最低限の調査定点を確保（図1）し、年間、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約13%（2006年6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数を元にして）の薬物依存・精神病患者調査を実施できる体制になっている。また、「2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査」は、調査実施と共に、HIV感染及び肝炎予防啓発プログラム

という意味も兼ねており、肝炎患者については、必要に応じて医療機関を紹介すると共に、薬物依存についても、必要に応じて、医療機関に依存者を結びつけるというアウトリーチのプログラムとして実施している。今年度は過去最高の7グループの協力を得て、研究を実施した。

D. 各研究結果

研究1 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査（病院群調査）

初回対象患者167人（検査経験者を含めると188人）を調べた。

対象患者をICD-10分類に従って分類し、各カテゴリー毎に人口統計学的属性・血清検査結果、身体所見を示したものが表1である。

性別では、ICD-10分類に関わらず、これまで同様に男性が圧倒的に多く、男：女は約8：2であった。

年齢はICD-10分類に対応して、「大麻」「多剤」は20～30歳代、「鎮静睡眠薬」は30～40歳、「覚せい剤」は30歳代が多く、これまで30歳代が多かった「揮発性溶剤」（有機溶剤）は「人気」の減少とともに高齢化が進み、40歳代が多かった。また、その「人気」のなさを反映して、対象者数も激減していた。

「鎮静睡眠薬」では例年、男性より女性の割合が高いが、今回は男性の方が多かった。

ICD-10分類に関わらず、独身者が多い一方で、離婚歴のある者の割合が一般人口での割合より明らかに高いのも従来通りであった。

一連の本調査では、2001年調査で、初めてHIV感染者を認めた（累積で1人/1868人）。そのケースは覚せい剤依存の30歳男性であったが、注射による薬物乱用歴はなく、タイでのCSWとの性接触による感染と考えられるケースであった。しかし、2002年調査では、注射による薬物使用者（IDUs）である性的伴侶から感染したと考えられる31歳の覚せい剤依存者（女性）1名とMSM間での性行為により感染したと考えられる27歳の多剤依存者（男性）1名が特定された。2004年調査では、覚せい剤依存の既往とCSWの経験のある33歳女性のエイズ患者1名が特定された。2008年調査では、HIV感染後に注射での

覚せい剤乱用を始めて幻覚妄想状態になったゲイの男性と5Meo-DIPT、ラッシュと覚せい剤（「あぶり」のみ）の乱用があるゲイの男性、計2名のHIV感染が確認された。今回の2009年調査ではHIV感染者はいなかった。

以上のように、薬物乱用・依存者のHIV感染は、性行為による感染の可能性と重複しており、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

HCV感染については、これまで同様、覚せい剤関連患者におけるHCV抗体陽性率が高く、33.6%（2007年では42.1%）であった。

身体所見では、覚せい剤・多剤関連患者における「入れ墨あり」の率が高く、これらの群での社会的偏りを示唆していた。

また、「根性焼き」とは、有機溶剤乱用時（ICD-10では揮発性溶剤F18）に、タバコの火を自らの手の甲に押しつけることによって出来る火傷痕であるが、その存在は有機溶剤乱用の既往を推測させるものであり、「揮発性溶剤」患者のみならず、覚せい剤関連患者や多剤患者にも認められ、有機溶剤の乱用が覚せい剤等の乱用へとつながり易いという経験則を裏打ちしている。

覚せい剤関連患者における肝炎抗体（抗原）陽性率の推移を図2に示した。1996年以降、C型肝炎抗体陽性率は確実に減少傾向にあるが、2008年には上昇したため、今年の動向が危惧されたが、結果はもとの下降ラインに戻った。

表2は、注射行動・性行動等のHIV感染に関する危険行動調査の結果である。

わが国では、依存性薬物の静脈注射とは、事実上、覚せい剤の静脈注射を意味している。表2に示すように、覚せい剤関連患者の生涯注射経験率は80.0%（2008年で79.3%）と高く、覚せい剤関連患者の60%（2008年で65～66%）の者に、シリンジ／針の生涯共用経験があった。

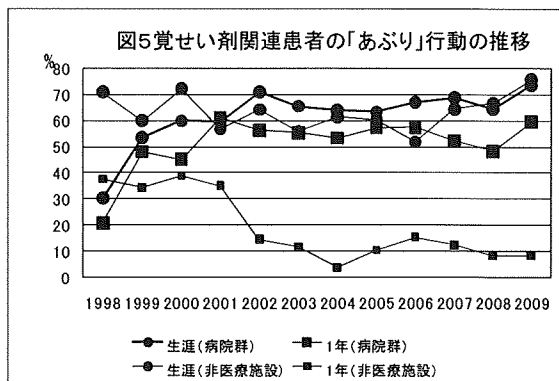
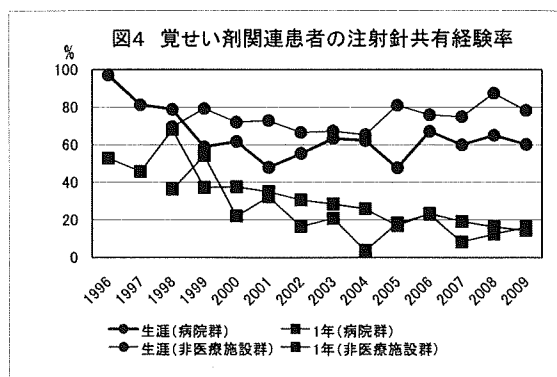
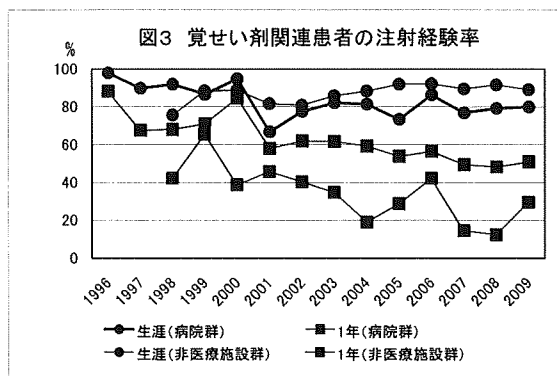
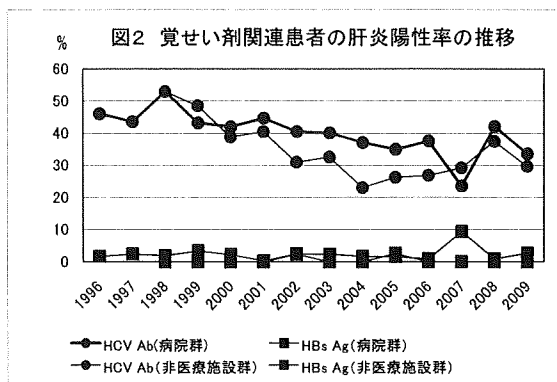
最近1年間に限れば、注射経験率は下がるが、それでも覚せい剤関連患者の51%（2008年で約48%）に最近1年間での注射既往があり、約14%（2008年で約16%）の者にシリンジ／針の共用経験もあった。

図3は覚せい剤関連患者の注射行動の推移を示している。注射の生涯経験率は、1996年以降、

低下傾向を示し、2002年以降少々上昇し、そのまま横ばいがあるが、注射の1年経験率は経年的に緩やかな低下傾向にある。その背景には「あぶり」の普及とその定着（図5）が影響していると推定される。

また、図4は注射針の共用経験率の推移を示している。ここでの傾向も注射経験率とほとんど同じであるが、その背景には、同じく「あぶり」の普及とその定着（図5）が影響していると推定してきた。

第2次覚せい剤乱用期（1970年～1994年）には、覚せい剤の乱用と言えば、静脈注射一辺倒であったが、その後の第3次乱用期（1995年～



現在) では、覚せい剤を火であぶって吸う「あぶり」が若い年代の覚せい剤乱用者間で広がった。図5は「あぶり」の経験率を示しているが、2000年以降、「あぶり」が定着した感がある。

また、この1年間で、注射と「あぶり」のどちらが多かったかを調べたが（表2）、2001年調査で、初めて「あぶり」が注射を上回ったが、2002年調査～2004年調査では再び注射優位となっていた。2005年では全く同率であったが、2006年調査以降、再び「あぶり」優位となっている。「あぶり」はHIV感染とは直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から、覚せい剤の乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。しかも、その気軽さ、ファッションナブルさから、性行動との結びつきの促進が憂慮され、看過できない問題である。

最近1年間での「風俗」での性交渉経験率は、対象データがないため、高い低いを言えないが（表2）、利用の際のコンドームの使用は徹底されておらず、啓発が必要である。

「風俗」以外での不特定多数との性交渉（「行きずり」の性交渉）経験率も、最近1年間での「風俗」での性交渉経験率と同じような解釈ができる。

最近1年間での海外渡航者（表2）は、数の上では少ないが、渡航した者の渡航先での薬物使用率、性接触率は決して低いとはいえず、注意を要する。

また、国内での外国人との性接触は「風俗」で多く、これもHIV感染の危険因子と考えられる。

表3は、ICD-10分類にかかわらず、注射の既往、入れ墨の有無による人口統計学的属性、血

清検査結果、身体所見を示したものである。

最近1年間で注射既往のある者の平均年齢は約36歳（2008年は約36歳）であり、これまでに注射既往のない者のそれは約37歳（2008年では34歳）で、以前には注射既往があるが、この1年間ではない者のそれは約42歳（2008年では約40歳）であった。この年齢の順位的は、これまでに注射既往のない者が最も若かったが、今回は、最近1年間で注射既往のある者が最も若くなった。要注意である。

また、HCV抗体陽性率は、注射による乱用経験のある二つの群で明らかに高く、HCV感染が注射針の共用に起因することを強く示唆している。

また、注射経験者では「入れ墨」保有率が高く、「指つめ」ありの率も高く、注射経験者の社会的属性の偏りを示唆している。

また、「入れ墨」は、皮膚を彫る際の針によってHCV、HIV感染等の感染危険行動になり得る。表3に示したように、「入れ墨」保有者でのHCV抗体陽性率は45%（2008年では57%）と高かった。

表4は、ICD-10分類に関わらず、調査対象を注射既往、入れ墨の有無から、注射行動、性行動についてみたものである。

昨年を除けば、従来、この1年間にも注射の既往がある群で、この1年間での「風俗」での性接触が3群中最も高かったが、今回の調査でも結果は同じであった。

以上より、覚せい剤関連患者では、注射行動という危険行動に加えて、入れ墨保有率も高く、複合的に危険性が増していると考えられる。

研究2 医療機関を受診していない薬物依存者調査

初回検査者115人（検査経験者を含めると298人）を調査した。

表5は医療機関を受診していない薬物依存者のICD-10分類にもとづく、人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示している。

今回初めて女性を支援するグループの協力を得た。覚せい剤関連患者の平均年齢は39歳（2008年では40歳）であり、病院群よりは1歳高かった（2007年までは病院群より1歳若い）。未婚者が多いと同時に離婚経験者も多いこ

とも、病院群と同じであった。

また、覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は29.7%（2008年では38%）であり、病院群の33.6%（表1）よりは低いが、そもそも両群ともに高いことに変わりはない。また、2007年の上昇傾向が再び下降した（図2）。

覚せい剤関連患者についての両群の比較では、「入れ墨」のある率と「指つめ」のある率は、それぞれ病院群：非病院群＝38:38（2007年では33:29）、8:8（2008年では6:8）であり、両群で違いはなかった。「根性焼き」のある率は非病院群で明らかに高かった（8:41）が、「自傷痕」のある割合は、15:19とほとんど同じであった。

従来、非病院群は、病院群よりも若くして薬物乱用を初め、精神病理学的リスクも高い者が多い傾向にある。ただし、現在ではこの2群の違いを明確に分けることは難しくなっている。

ただし、図5に示したように、この群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群でのこの1年間での注射経験率（図3）は低い。これらは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

E. HCV感染に関するハイリスク因子について

本調査研究では、調査の度にHCV感染率が高率である。そこで、病院群と非病院群の双方を併せて、HCV感染に関するハイリスク因子について検討した。

表9は、今回の検査を受ける際に、注射による薬物の使用はHIV感染・C型肝炎の主な感染経路になっていることを知っていたかどうか関する初回検査者の結果である。注射によるHIV感染の危険を知らなかった者はIDU経験者で多かったが、統計学的有意差はなかった。C型肝炎については、IDU経験者の方が知っていた者が多かったが、有意差はなかった。

また、表10は「あぶり」を行った理由につい

での回答である。「注射は怖いから」「針が手に入らなかったから」で有意差が認められた。HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者が極めて少ないことに留意する必要がある。

図6は、注射による薬物使用の経験の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。注射による薬物使用の経験がある者でのHCV抗体陽性率が明らかに高かった。

図7は、入れ墨の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。入れ墨のある者でのHCV抗体陽性率は明らかに高かった。

図8は、この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との関係を示している。この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との間には、明らかな関係は認められなかった。

図9は、年代とHCV抗体陽性率との関係を示している。年代が上がるほどHCV抗体陽性率が高くなることが明らかとなった。

表9 初回検査者におけるHIV/HCV感染と注射との関係を知らなかった者の割合。

	HIVについて知らなかった者	C型肝炎について知らなかった者
IDU非経験者	14.0% (6/43)	14.0% (6/43)
IDU経験者	21.4% (22/103)	6.8% (7/103)

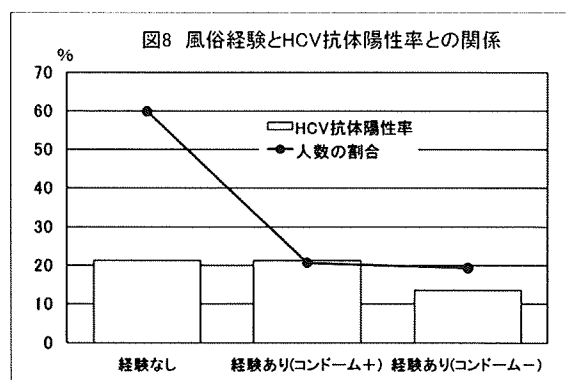
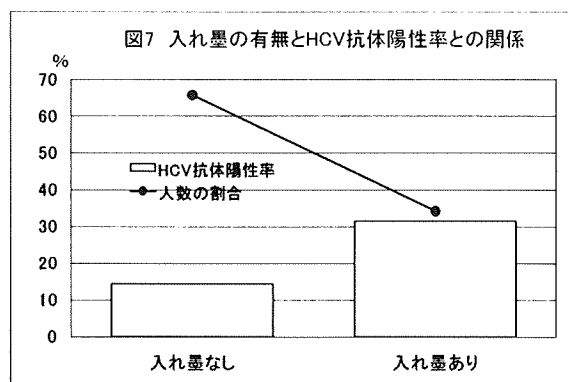
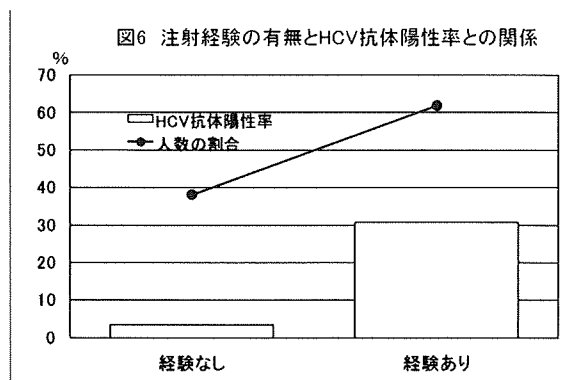
有意差なし

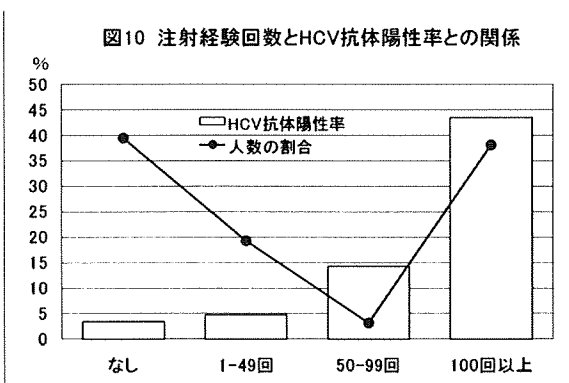
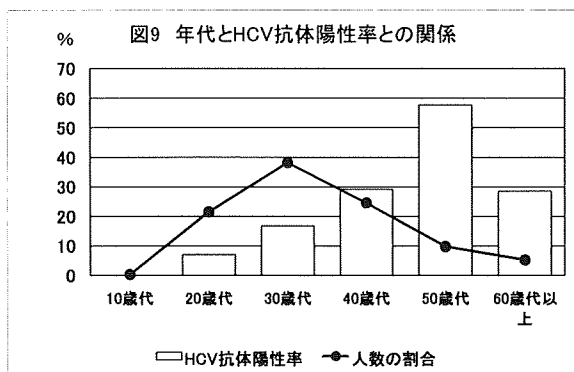
表10 初回検査者における「あぶり」の理由

	IDU非経験者	IDU経験者
好奇心	54.5% (6/11)	56.6% (30/53)
注射は怖い	63.6% (7/11)	20.8% (11/53)
気軽にできるから	36.4% (4/11)	30.2% (16/53)
回数を多くできるから	0% (0/11)	0% (0/53)
依存になりにくいと思ったから	36.4% (4/11)	13.2% (7/53)
針が手に入らなかったから *	9.1% (1/11)	30.2% (16/53)
HIV感染が気になったから	9.1% (1/11)	1.9% (1/53)

C型肝炎感染が気になったから	0% (0/11)	1.9% (1/53)
その他	0% (0/11)	15.1% (8/53)

* : p<0.05





そこで、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、固有値が0.352、Wilksのラムダが0.740

($p < 0.000$) であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は73~86%で、正準判別関数では、注射の回数：0.831、年齢：0.442、入れ墨：0.159であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。

一般人口における年齢とHCV抗体陽性率と間には、高齢になるほどHCV抗体陽性率が高まるという、年齢による累積効果とでも言うべき現象が存在するようであるが、図9に見る本調査の対象群における年代とHIV抗体陽性率との関係は、その現象の範囲を超える上昇ぶりである。これは、注射針の共有が同世代の薬物乱用・依存者間で繰り返されてきた結果ではないかと考えられる。

ちなみに、図10は、これまでの注射による薬物使用回数とHCV抗体陽性率との関係を示している。これまでの注射回数というものは信頼性に欠ける面があり、確かなことは、これまでに注射による薬物乱用の経験が無いという場合

と、100回以上と言って良いほど多数回の注射経験があるという2点であろうと推定できる。従って、図10の意味するところは、注射回数が増えれば増えるほど、HCV抗体陽性率は高まると解釈して問題はないであろう。

F. 結論

① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

② 研究は「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」(病院群)、「2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査」(非病院群)の2部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。いずれの調査も、2009年1月1日~2009年12月31日に入院、入所(一部通所)した者を対象とした。

③ 病院群は4施設の初回対象患者167人(検査経験者を含めると188人)を調べた。この4病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約13%(2006年6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数を元にして)は捕捉できると推定している。非病院群は7施設(過去最高)の初回検査者115人(検査経験者を含めると298人)を調査した。

④ 両群でHIV抗体陽性者は認められなかった。

⑤ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が34%と高く、80%の者に、これまでに注射による薬物使用の既往(以下、注射の既往)があり、この1年間でも51%の者に注射の既往があった。また、約60%の者にシリンジ及び針の生涯共用経験があり、最近1年間に限っても、約14%の者にシリンジ及び針の共用経験があった。経年的には注射の1年経験率、注射針の1年共用経験率は低下を示しており、その背景には「あぶり」の普及があると推測される。

⑥ 病院群における「あぶり」の経験率は2000

年以降、定着したようである。「あぶり」を行った理由としては、「好奇心」「注射は怖いから」「気軽にできるから」の割合が高く、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者は極めて少ないことが明らかになった。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の観点からは決して歓迎される形態とは言えない。同時に、その気軽さ及びファッションブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が伺え、今後、薬物使用と性行動との関係に関する対応が必要である。

⑦ 非病院群の覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は約30%であり、病院群の34%よりは低かった。

⑧ 非病院群は病院群よりも早い時期から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多い傾向にあり、薬物依存症の「重症」群でもある。しかし、この群での、この1年間での注射経験率は病院群でのそれよりも低い。それは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

⑨ 病院群、非病院群に関係なく、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無を独立変数として、判別分析を行った。その結果、固有値が0.352、Wilksのラムダが0.740 ($p < 0.000$) であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は73~86%で、正準判別関数では、注射の回数：0.831、年齢：0.442、入れ墨：0.159であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。

⑩ 薬物乱用・依存者のHIV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複していることが多そうで、今後も、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

G. 発表論文 なし

H. 学会発表 なし

I. 知的所有権の取得状況 なし

表1 【医療機関を受診した薬物依存者】の属性・血清検査・身体所見(%)

	F11	F12	F13	F15	F18	F19	全体
	アヘン類	大麻	鎮静睡眠薬	覚せい剤	揮発性溶剤	多剤	
	2[1.2]	3[1.8]	19[11.4]	125[74.9]	9[5.4]	9[5.4]	167[100]
性別							
男	1(50.0)	3(100)	10(52.6)	99(79.2)	8(88.9)	8(88.9)	129(77.2)
女	1(50.0)	0(0)	9(47.4)	26(20.8)	1(11.1)	1(11.1)	38(22.8)
年齢							
20歳代	1(50.0)	1(33.3)	3(15.8)	24(19.2)	1(11.1)	4(44.4)	34(20.4)
30歳代		2(66.7)	4(21.1)	53(42.4)	3(33.3)	4(44.4)	66(39.5)
40歳代	1(50.0)		7(36.8)	31(24.8)	4(44.4)	1(11.1)	44(26.3)
50歳代			1(5.3)	14(11.2)			15(9.0)
60歳代			4(21.1)	3(2.4)	1(11.1)		8(4.8)
平均年齢±SD	32 ±11.3	30.3 ±5.7	44.2 ±15.2	38 ±10.2	39 ±11.3	30.2 ±6.8	38.2 ±11.1
現在の配偶歴(%)		n=1		n=101	n=2	n=7	n=132
未婚	50.0		57.9	64.4	100.0	85.7	64.4
既婚	50.0	100	31.6	10.9	0	14.3	15.2
離婚			5.3	23.8	0.0	0	18.9
死別			5.3	1	0	0	1.5
離婚歴あり	0	0	5.3	29.7	0.0	0	23.5
血清検査(%)							
HIV抗体陽性	0	0	0	0(0/112)	0	0	0(0/154)
HCV抗体陽性	0	0	10.5	33.6(38/113)	22.2	11.1	27.7(43/155)
HBs抗原陽性	0	0	0	2.7(3/113)	11.1	0	2.6(4/155)
HBs抗体陽性	0	0(0/1)	0	0(0/67)	0(0/1)	0(0/7)	0(0/97)
HBc抗体陽性	0	0(0/1)	0	1.6(1/61)	0(0/1)	0(0/7)	1.1(1/91)
TPHA陽性率	0	0	0	3.6(4/112)	22.2(2/9)	0	3.9(6/154)
性病既往(自己申告)(%)							
毛ジラミ	50.0	0(0/1)	10.5	17.8(18/101)	0(0/2)	0(0/7)	15.9(21/132)
淋病	0.0	0(0/1)	0	13.9(14/101)	0(0/2)	0(0/7)	10.6(14/132)
クラミジア	0.0	0(0/1)	10.5	5.0(5/101)	0(0/2)	0(0/7)	5.3(7/132)
梅毒	0.0	0(0/1)	0	7.9(8/101)	0(0/2)	0(0/7)	6.1(8/132)
身体所見(%)							
輸血の既往あり	0	0(0/1)	10.5	0(0/89)	0(0/2)	0(0/7)	1.7(2/120)
歯の著明不良あり	0	0(0/1)	0	25.7(26/101)	100(2/2)	0(0/7)	21.2(28/132)
注射痕あり	0	0(0/1)	0	40.6(41/101)	0(0/2)	0(0/7)	31.1(41/132)
入れ墨あり	50	0(0/1)	0	37.6(38/101)	50.0(1/2)	28.6(2/7)	31.8(42/132)
指つめあり	0	0(0/1)	0	7.9(8/101)	0(0/2)	0(0/7)	6.1(8/132)
根性焼きあり	0	0(0/1)	10.5	7.9(8/101)	50.0(1/2)	28.6(2/7)	9.8(13/132)
自傷痕あり	0	0(0/1)	10.5	14.9(15/101)	0(0/2)	14.3(1/7)	13.6(18/132)

表2【医療機関を受診した薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	F11	F12	F13	F15	F18	F19	全体
	アヘン類	大麻	鎮静睡眠薬	覚せい剤	揮発性溶剤	多剤	
	2[1.2]	3[1.8]	19[11.4]	125[74.9]	9[5.4]	9[5.4]	167[100]
これまでに(%)							
注射経験あり	0(0/2)	0(0/1)	0(0/19)	80.0(80/100)	0(0/2)	28.6(2/7)	62.6(82/131)
シリンジ共用経験+	0(0/2)	0(0/1)	0(0/19)	60.2(59/98)	0(0/2)	14.3(1/7)	46.5(60/129)
針の共用経験+	0(0/2)	0(0/1)	0(0/19)	60.2(59/98)	0(0/2)	14.3(1/7)	46.5(60/129)
注射回数							
なし	100(2/2)	100(1/1)	100(19/19)	20.0(20/98)	100(2/2)	71.4(5/7)	38.0(49/129)
1~49回				26.5(26/98)		28.6(2/7)	21.7(28/129)
50~99回				8.2(8/98)		0(0/7)	6.2(8/129)
100回以上				44.9(44/98)		0(0/7)	34.1(44/129)
最近1年間で(%)							
注射経験あり	0(0/2)	0(0/1)	0(0/19)	51.0(51/100)	0(0/2)	14.3(1/7)	39.7(52/131)
シリンジ共用経験+	0(0/2)	0(0/1)	0(0/19)	14.4(14/97)	0(0/2)	0(0/7)	10.9(14/128)
針の共用経験+	0(0/2)	0(0/1)	0(0/19)	14.4(14/97)	0(0/2)	0(0/7)	10.9(14/128)
注射回数							
なし	100(2/2)	100(1/1)	100(19/19)	49.0(49/100)	100(2/2)	85.7(6/7)	60.3(79/131)
1~49回	0	0	0	36.0(36/100)	0(0/2)	14.3(1/7)	28.2(37/131)
50~99回	0	0	0	11.0(11/100)	0(0/2)	0(0/7)	8.4(11/131)
100回以上	0	0	0	4.0(4/100)	0(0/2)	0(0/7)	3.1(4/131)
これまでに「あぶり」の経験あり(%)							
	0(0/2)	0(0/1)	0(0/19)	73.5(72/98)	0(0/2)	42.9(3/7)	58.1(75/129)
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)							
	0(0/2)	0(0/1)	0(0/19)	59.6(59/99)	0(0/2)	42.9(3/7)	47.7(62/130)
この1年間でどちらが多いか?(%)							
注射	0	0.0	0	36.0(36/100)	0(0/2)	0(0/7)	27.5(36/131)
「あぶり」	0	0.0	0	37.0(37/100)	0(0/2)	28.6(2/7)	29.8(39/131)
同程度	0	0.0	0	5.0(5/100)	0(0/2)	14.3(1/7)	4.6(6/131)
どちらもなし	100(2/2)	100(1/1)	100(19/19)	22.0(22/100)	100(2/2)	57.1(4/7)	38.2(50/131)
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	50.0(1/2)	100(1/1)	84.2(16/19)	42.4(42/99)	50.0(1/2)	85.7(6/7)	51.5(67/130)
あり(常にコンドーム+)	50.0(1/2)	0(0/1)	10.5(2/19)	41.4(41/99)	0(0/2)	14.3(1/7)	34.6(45/130)
あり(コンドーム-のことあり)	0(0/2)	0(0/1)	5.3(1/19)	16.2(16/99)	50.0(1/2)	0(0/7)	13.8(18/130)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	50.0(1/2)	100(1/1)	94.7(18/19)	81.0(81/100)	100(2/2)	57.1(4/7)	81.7(107/131)
あり(常にコンドーム+)	50.0(1/2)	0(0/1)	0(0/19)	10.0(10/100)	0(0/2)	0(0/7)	8.4(11/131)
あり(コンドーム-のことあり)	0(0/2)	0(0/1)	5.3(1/19)	9.0(9/100)	0(0/2)	42.9(3/7)	9.9(13/131)
国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)							
なし	50.0(1/2)	100(1/1)	100(19/19)	73.0(73/100)	100(2/2)	100(7/7)	78.6(103/131)
あり(常にコンドーム+)	50.0(1/2)	0(0/1)	0(0/19)	23.0(23/100)	0(0/2)	0(0/7)	18.3(24/131)
あり(コンドーム-のことあり)	0(0/2)	0(0/1)	0(0/19)	4.0(4/100)	0(0/2)	0(0/7)	3.1(4/131)
性接触ありの場合の相手							
「風俗」で	100(1/1)	-	-	92.6(25/27)	-	-	92.9(26/28)
「風俗」以外で		-	-	0.0(0/27)	-	-	0(0/28)
両方で		-	-	7.4(2/27)	-	-	7.1(2/28)
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)							
	50.0(1/2)	100(1/1)	5.3(1/19)	8.0(8/100)	0(0/2)	42.9(3/7)	10.7(14/131)
上記のうち							0
渡航先での薬物使用	0(0/1)	0(0/1)	100(1/1)	62.5(5/8)	-	100(3/3)	64.3(9/14)
渡航先での性接触	100(1/1)	0(0/1)	0(0/1)	75.0(6/8)	-	100(3/3)	71.4(10/14)

表3 【医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

		これまでに	これまでに注射経験あり		入れ墨	
		注射経験なし	1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
		49[37.4]	30[22.9]	52[39.7]	90[68.2]	42[31.8]
性別						
	男	30(61.2)	23(76.7)	40(76.9)	58(64.4)	36(85.7)
	女	19(38.8)	7(23.3)	12(23.1)	32(35.6)	6(14.3)
年齢						
	20歳代	13[44.8]	3[10.3]	13[44.8]	22[75.9]	7[21.4]
	30歳代	17[34.0]	13[26.0]	20[40.0]	42[84.0]	8[16.0]
	40歳代	14[40.0]	5[14.3]	16[45.7]	16[44.4]	20[55.6]
	50歳代	1[8.3]	8[66.7]	3[25.0]	6[50.0]	6[50.0]
	60歳以上	4[80.0]	1[20.0]	0[0]	4[80.0]	1[20.0]
	平均年齢±SD	37.1±12.1	41.9±11.6	36.3±8.9	36.6±11.0	40.6±10.4
現在の配偶歴						
	未婚	71.4	56.7	63.5	72.2	47.6
	既婚	24.5	10.0	9.6	18.9	7.0
	離婚	2.0	33.3	25.0	7.8	42.9
	死別	2.0	0.0	1.9	1.1	2.4
	離婚歴あり	2.0	43.3	30.8	12.2	47.6
血清検査(%)						
	HIV抗体陽性率	0(0/45)	0(0/30)	0(0/44)	0(0/81)	0(0/38)
	HCV抗体陽性率	4.3(2/46)	46.7(14/30)	31.8(14/44)	15.9(13/82)	44.7(17/38)
	HBs抗原陽性率	0(0/46)	3.3(1/30)	2.3(1/44)	0(0/82)	5.3(2/38)
	HBs抗体陽性率	0(0/45)	0(0/22)	0(0/29)	0(0/69)	0(0/27)
	HBc抗体陽性率	0(0/45)	5.9(1/17)	0(0/29)	0(0/64)	0(0/27)
	TPHA陽性率	0(0/46)	3.3(1/30)	7.0(3/43)	2.5(2/81)	5.3(2/38)
性病既往(自己申告)(%)						
	毛ジラミ	6.1	20.0	23.1	7.8	33.3
	淋病	2.0	23.3	11.5	5.6	21.4
	クラミジア	6.1	6.7	3.8	4.4	7.1
	梅毒	0.0	13.3	7.7	3.3	11.9
身体所見(%)						
	輸血の既往あり	4.3(2/47)	0	0(0/43)	2.4(2/82)	0(0/38)
	歯の著明不良あり	4.1	43.3	25.0	16.7	31.0
	注射痕あり	0	56.7	46.2	26.7	40.5
	入れ墨あり	10.2	50.0	40.4		
	指つめあり	0	10	9.6	1.1	16.7
	根性焼きあり	16.3	3.3	7.7	11.1	7.1
	自傷痕あり	10.2	20	13.5	17.8	4.8

表4【医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまで			入れ墨	
	注射経験なし 49[37.4]	これまで注射経験あり 1年間にはなし 30[22.9]	1年間にもあり 52[39.7]	なし 90[68.7]	あり 41[31.3]
これまで (%)					
注射経験あり	0	100	100	30.7(27/88)	80.5
シツツ' 共用経験あり	0	90	66.0(33/50)	30.7(27/88)	80.5
針の共用経験あり	0	90	66.0(38/50)	30.7(27/88)	80.5
注射経験の注射回数					
なし	100	0	0(0/51)	50.0(44/88)	12.2
1~49回	0	27.6(8/29)	39.2(20/51)	23.9(21/88)	17.1
50~99回	0	0(0/29)	15.7(8/51)	8.0(7/88)	2.4
100回以上	0	72.4(21/29)	45.1(23/51)	18.2(16/88)	68.3
最近1年間で (%)					
注射経験あり	0	0	100	34.4	51.2
シツツ' 共用経験	0	0	28.6(14/49)	5.7(5/88)	22.5(9/40)
針の共用経験	0	0	28.6(14/49)	5.7(5/88)	22.5(9/40)
注射経験の注射回数					
なし	100	100	0	65.6	48.8
1~49回	0	0	71.2	30.0	24.4
50~99回	0	0	21.2	4.4	17.1
100回以上	0	0	7.7	0.0	9.8
これまで「あぶり」の経験あり (%)					
	42.9	58.6(17/29)	72.5(37/51)	51.7(46/89)	72.5(29/40)
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)					
	40.8	30.0	64.7(33/51)	44.9(40/89)	53.7
この1年間でどちらが多いか？ (%)					
注射	0	0	69.2	20.0	43.9
「あぶり」	40.8	30	19.2	33.3	22.0
同程度	0	0	11.5	4.4	4.9
どちらもなし	59.2	70	0	42.2	29.3
「風俗」での性接触あり(最近1年間) (%)					
なし	63.3	55.2(16/29)	38.5	60.7(54/89)	31.7
あり(常にコンドーム+)	28.6	27.6(8/29)	44.2	28.1(25/89)	48.8
あり(コンドーム-のこともあり)	8.2	17.2(5/29)	17.3	11.2(10/89)	19.5
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間) (%)					
なし	83.7	80.0	80.8	82.2	80.5
あり(常にコンドーム+)	10.2	6.7	7.7	10.0	4.9
あり(コンドーム-のこともあり)	6.1	13.3	11.5	7.8	14.6
国内で外国人との性接触あり(最近1年間) (%)					
なし	83.7	86.7	69.2	85.5	63.4
あり(常にコンドーム+)	12.2	13.3	26.9	11.1	34.1
あり(コンドーム-のこともあり)	4.1	0	3.8	3.3	2.4
性接触ありの場合の相手					
「風俗」で	87.5(7/8)	75.0(3/4)	100(16/16)	92.3(12/13)	93.3(14/15)
「風俗」と「風俗」以外の	12.5(1/8)	25.0(1/4)	0(0/16)	7.7(1/13)	6.7(1/15)
外渡航歴のある者(最近1年間) (%)					
	18.4	6.7	5.8	11.1	9.8
上記のうち					
渡航先で薬物使用のあった者	77.8(7/9)	50.0(1/2)	33.3(1/3)	60.0(6/10)	75.0(3/10)
渡航先で性交渉のあった者	77.8(7/9)	50.0(1/2)	66.7(2/3)	70.0(7/10)	75.0(32/10)

表5【医療機関を受診していない薬物依存者】の属性・血清検査・身体所見(%)

		主診断 (ICD-10)							
		F10	F11	F12	F13	F15	F18	F19	全体
		アルコール	アヘン類	大麻	鎮静睡眠剤	覚せい剤等	揮発性溶剤	多剤	
		15[13.20]	1[0.9]	1[0.9]	4[3.5]	37[32.5]	13[11.4]	43[37.7]	114[100]
性別	男	15(100)	1(100)	1(100)	3(75.0)	34(91.9)	12(92.3)	25(58.1)	91(79.8)
	女				1(25.0)	3(8.1)	1(7.7)	18(41.9)	23(20.2)
年齢								n=41	n=112
	10歳代						1(7.7)		1(0.9)
	20歳代				1(25.0)	9(24.3)	1(7.7)	14(34.1)	25(22.3)
	30歳代	4(26.7)		1(100)	1(25.0)	13(35.1)	3(23.1)	20(48.8)	42(37.5)
	40歳代	2(13.3)	1(100)		1(25.0)	8(21.6)	7(53.8)	5(12.2)	24(21.4)
	50歳代	5(33.3)				6(16.2)	1(7.7)	2(4.9)	14(12.5)
	60歳代	4(26.7)			1(25.0)	1(2.7)			6(5.4)
	平均年齢±SD	50.5 ±10.6	45.0	32.0	41.3 ±14.1	38.9 ±10.6	39.2 ±9.4	33.0 ±8.0	38.4 ±10.9
現在の配偶歴(%)								n=42	n=113
	未婚	53.3		100	75.0	56.8	84.6	60.5	61.4
	既婚	13.3				8.1	7.7	7.0	7.9
	離婚	26.7	100.0		25.0	29.7	7.7	32.6	28.1
	死別	6.7				5.4			2.6
	離婚歴あり	33.3	100	0	25.0	37.8	7.7	35.7	32.7
血清検査(%)		n=13						n=41	n=110
	HIV抗体陽性	0	0	0	0	0	0	0	0
	HCV抗体陽性率	7.7	100	0.0	0	29.7	0	9.8	15.5
	HBs抗原陽性率	0	0	0	0	2.7	0	0	0.9
	HBs抗体陽性率	7.7	0	0	50.0	8.1	7.7	7.5	9.2
	HBc抗体陽性率	7.7	0	0	25.0	16.2	15.4	7.5	11.9
	TPHA陽性率	0	0	0	0	0	0	2.4	0.9
性病既往(自己申告)(%)									
	毛ジラミ	0	0	0	0	13.5	7.7	16.3	11.4
	淋病	0	0	0	0.0	16.2	15	7.0	9.6
	クラミジア	0	0	0	0.0	8.1	0.0	9.3	6.1
	梅毒	0	0	0	0	0	7.7	4.7	2.6
身体所見(%)									
	輸血の既往あり	14.3(2/14)	0.0	0	25.0	21.6	15.4	10.3(4/39)	15.6(17/109)
	歯の著明不良あり	60.0	100.0	0.0	50.0	59.5	69.2	62.8	61.4
	注射痕あり	0	0	0.0	0.0	45.9	0	18.6	21.9
	入れ墨あり	26.7	0.0	0	0	37.8	15.4	55.8	38.6
	指つめあり	6.7	0	0	0	8.1	0	2.3	4.4
	根性焼きあり	0.0	0.0	0.0	0.0	40.5	30.8	30.2	28.1
	自傷痕あり	0	0	0	25.0	18.9	38.5	32.6	23.7